

# インド政策金利引下げ(2013年3月19日発表) 概要と今後の見通し

ご参考資料 2013年3月21日

インド準備銀行(RBI、中央銀行)は、3月19日の金融政策決定会合において、政策金利であるレポ金利の引下げを決定しました。当社グループのインド株式運用担当者は、RBIの一連の金融緩和策によって投資が促進されるとともに、期待されているインド政府の財政構造改革によって、インド経済は長期的に見て再び成長が加速すると予想しています。

## 政策金利引下げの概要:

3月19日、RBIは政策金利であるレポ金利(市中銀行への貸出金利)とリバース・レポ金利(市中銀行のRBIへの預入金利)をそれぞれ0.25%引下げ、7.50%と6.50%とすることを決定し、即日実施しました。いずれも、前回の1月29日に続いて2会合連続の利下げとなりました。

また、1月に引下げられた預金準備率(市中銀行が預金残高の一定割合をRBIに預入れる際の割合)は、4.0%で据置くことが決定されました。引続き、RBIによる公開市場操作などを通じた市場への流動性供給が見込まれます。

今回の追加利下げの背景として、RBIは、国内景気が減速傾向にある中、金融緩和策によって投資を促進することにより、経済成長を押し上げるとしています。一方で、RBIは、依然として高水準にある経常赤字や食料品価格の上昇を背景に高止まりしているインフレへの懸念から、「追加緩和の可能性は限定的」との見方を示しました。

インドの代表的なインフレ指標である卸売物価指数(WPI)は、3月14日に発表された2月のWPI上昇率が前年同月比+6.8%と1月の同+6.6%から加速したものの、食料品を除くコアWPI上昇率は同+3.8%と2010年3月以来の低水準となり、減速傾向を維持しています。

インド国内経済については、2012年10-12月期の実質国内総生産(GDP)成長率が前年同期比+4.5%と7-9月期の同+5.3%から鈍化し、2009年1-3月期の同+3.5%以来の低成長となりました。

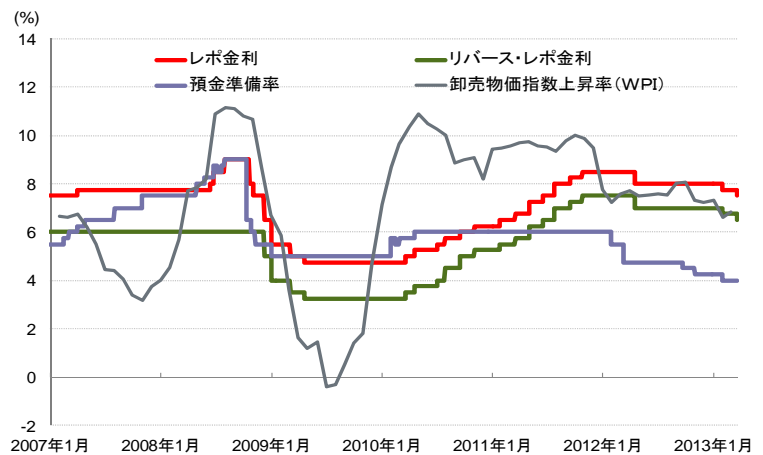
19日のインド株式市場では、RBIが追加利下げの可能性について慎重な姿勢を示したことに加え、同日、連立政権の中核をなしていたドラヴィダ進歩党が連立離脱したことを受けて政局不安が懸念されたことなどから、同株式市場を代表するCNX Niftyは前日比で1.5%下落しました。

## 今後の見通し:

運用担当者は、インフレ圧力は向こう3~4ヵ月で緩和され、WPI上昇率は2013年を通して+6.0~+6.5%程度に着地すると予想しています。インドの国内景気が引続き減速傾向にあることから、5月3日に開催予定の次回の金融政策決定会合で、RBIがさらに0.25%~0.50%引下げる可能性はあると見えています。

今後、RBIによる金融緩和の継続により企業の設備投資が促進され、特に2014年の総選挙以降、新政権によって構造改革がさらに進展すると期待されることから、長期的に見てインド経済の成長が再び加速することが予想されます。

インドの政策金利、預金準備率、および卸売物価指数上昇率(WPI、前年比)の推移  
(2007年1月~2013年3月(政策金利、預金準備率)/2013年2月(WPI))



出所: Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

※当資料は情報提供のみを目的とするもので、特定の金融商品等の勧誘・販売を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料でもありません。※当資料は信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしも正確性、完全性を保証するものではありません。※当資料には、現在の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、事前の通知なくこれらを変更したり修正したりすることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。※当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来を保証するものではありません。

英国ブルーデンシャル社はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルデンシャル・ファイナンシャル社とはなんら関係がありません。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第379号/加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

130321(03)